

システム開発のアドソル日進は慶応義塾大学のSFC研究所と建設業界向けにあらゆるモノがネットにつながる「IoT」技術を共同開発すると発表した。建設現場でセンサーなどから取得したデータと地理情報システム(GIS)の技術を融合させ、業務を効率化するシステムの開発を進める。

アドソルはIoTのシステムやセキュリティ技術の開発を得意とする。GISの研究を進めてきた慶応大と組み、測量や設計などの業務で使えるシステムを

建設IoT 慶大と連携

アドソル日進 測量や設計など

開発する。

具体的には建設現場にあるカメラやセンサーから取得したビッグデータを使い、予測される環境変化を3次元で可視化する技術などを研究する。アドソルの施設内などに建設現場のジオラマを設置し、データ解析技術を研究していく。屋内の実証実験を経て、建設現場でも実験をする。建設現場では人手不足が深刻で、生産性の向上が課題になっている。IT(情報技術)技術を活用して、業務を効率化する動きが広がっている。

許諾番号 30057889 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

©日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。

日本経済新聞社は、記事内容により、特定の企業・団体や商品・サービスの購入・投資等を推奨するものではありません。